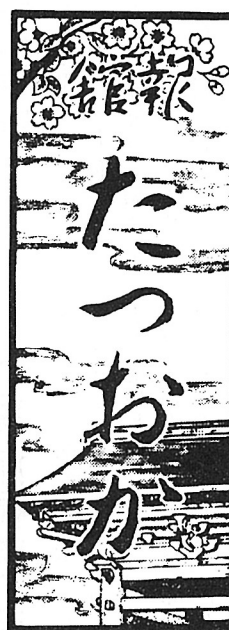


# 心豊かな地域づくりをめざして 知りあって 触れあって 学びあおう

## 公民館委員総会



発行所  
飯田市竜丘公民館  
編集人  
竜丘公民館広報委員会  
印刷所  
龍共印刷株式会社  
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,823人  
男子 3,358人  
女子 3,465人  
世帯数 2,153戸  
(15年5月末現在)

去る四月二十六日、公民館委員総会が開催され、今年度の基本方針、事業計画、予算が決定され新年度がスタートしました。会議に先立ち、長年にわたり公民館活動に尽力された方々の表彰も行われました。

公民館長

木下 陸 奥

平成十五年度の公民館活動は、全地域から選出された公民館委員の方々の力強い支援と推進によって発足しました。

公民館の諸事業は、地域の役割も参加し、お互いのつながりと地域にかかわる理解に立って、住みよい地域にすることが願いであります。

従って、企画運営に当たっては、多くの人々の要望を大事にし、また積極的に参加できるように十分配慮していくことが大事だと思います。

「竜丘村公民館報」(昭二十二・三・一発行)一号に初代公民館長木下右治氏が、「公民館誕生」と題して



社会教育功労者表彰

- ・(春、秋)の二回体育合同)
- ・人形劇フェスタ二〇

て次のように述べています。

「由来竜丘村は文化村として名を知られている。公民館の振興により新しい時代の文化村を再建したい……村民各自が自覚を持ち村文化団体が協力するとき公民館は次第に機能を発揮して村自治運営の強力な底力となるであろう……」と。

公民館は、地域発展の基盤的役割をもつという立場が、発足当時の理念であったと思うと、地域につながる価値ある事業を推進していくことが大事であります。このことを認識し、みんなの公民館となるよう努力して参りたいと思います。

文化委員長

伊原 広 隆

竜丘で育まれた地域固有の文化を改めて学習するとともに、地域住民の交流の場を幅広く提供し、地域づくり活動を推進します。

- ・(事業)
- ・親子ふれあいハイキング

民俗資料保存委員長

林 正 己

民俗資料保存委員会は、「地域の有形無形の民俗資

料を後世に伝えるための、収集・保存活動を行うとともに、それらを広く地域に公開していく」の活動方針のもとで、石造文化財の調査記録をはじめ、あらゆる資料の保存収集を行っています。

現在、小学校にある記念館を資料館としており、老朽化が進んでおり、常設展示の検討と併せて、民俗資料館のあり方等々の研究を進めてまいります。失われてからでは、取り返しのつかない貴重な資料の保存収集に、皆様のご理解ご協力をお願い致します。

### 表彰

長年の公民館活動の功勞に対し、平成十五年度の社会教育功勞者として、八名の方々が表彰されました。大変お世話になりました。

体育委員長

西村 英 和

本年度の新しい事業として行ってきたドッチビーを竜丘大会として行うことになりました。また、文化祭と同時開催のスポーツ祭では、ニュースポーツの普及を目的として、ペタンクを行うことにしました。

体育委員会最大の行事である市民運動会は昨年の反省を生かし種目の検討を行っています。

一人でも多くの地域の皆さんが参加を頂ける様に、体育委員一同頑張りますのでよろしくお願致します。



民俗資料保存委員  
昭和五十一年  
昭和五十二年  
昭和五十三年  
平成十四年  
通算二十六年



文化委員  
昭和四十六年  
昭和四十七年  
昭和四十八年  
昭和四十九年  
平成十四年  
通算三十二年



新井 文明さん(駄科)  
体育指導員・分館主事  
平成十一年  
平成十四年  
通算四年



文化委員  
平成七年  
平成十年  
平成十四年  
通算八年



安東 雅行さん(時又)  
体育委員・体育指導員  
平成三年  
平成十年  
平成十四年  
通算六年



文化委員  
平成七年  
平成十年  
平成十四年  
通算八年



篠田昌子さん(旧姓中島 桐林)  
広報委員  
平成九年  
平成十四年  
通算六年



体育指導員  
平成九年  
平成十四年  
通算六年

### 平成15年度 竜丘公民館委員名簿

館長 木下 陸 奥

委員	長	西	村	英	和	和	信	和
副委員	副	清	水	美	彦	浩	恒	志
指導員	指	原	藤	た	子	男	賢	彦
副指導員	副	榎	田	照	美	昭	辰	俊
		横	井	出	己	至	正	至
		○久	村	保	夫	吾	和	吾
		今	原	一	夫	雄	健	雄
		串	下	秀	夫	一	春	子
		宮	沢	克	夫	子	文	巴
		福	浦	虎	夫	郎	周	郎
		○北	澤	秀	久	恵	隆	利
		林	平	喜	友	美	和	岩
		○鈴	木	喜	友	子	利	安
		森	下	喜	友	郎	岩	美
		木	澤	喜	友	郎	岩	美
		○塩	恵	喜	友	郎	岩	美
		林	洋	喜	友	郎	岩	美
		林	彰	喜	友	郎	岩	美
		松		喜	友	郎	岩	美
		枝		喜	友	郎	岩	美

○印：体育指導員

委員	澤	隆	崎
副委員	岡	下	玲
指導員	木	島	武
副指導員	○中	島	昭
	池	戸	夫

「SARS」横文字が苦手な私でも、連日の報道ですっかり覚えてしまった。皆さんもご存じの通り、今アジアを中心に猛威をふるっている、ウィルス系の新型肺炎の事である。

当初国内には、「対岸の火事」の雰囲気もあったが、思えば、薬害エイズ問題や、BSEいわゆる狂牛病問題も、そんな国民意識から対策が遅れ日本に上陸してしまっただけで、交通手段が発達した昨今では、完全に封じられるのは困難と思えるが、できる限りの方策を取りたいものである。

さて、その肺炎が中国に広がった理由のひとつに、北京での安全宣言があった。本当に実態がつかめなかったと言よりは、観光や国外からの企業進出など、国内経済に及ぼす影響を考慮しての事ではないだろうか？

しかし国民にとって良かれと思った行動が、皮肉にも死者や患者を増やす結果となっていました。

そういえば国内にも似たような事がよくある。原子力関連施設や、食品加工施設で発生したトラブルを、会社の体裁を考慮何と社内で解決しようとして、近隣住民や省庁への連絡が遅れ、結果として社会的信用を失ってしまう。どちらが会社のためになるかを自問した例ではないか。

さてそんな中、肺炎に感染していた医師が、国内観光をしていた事実がわかった。国も地方自治体も素早い対応をとった、万一の事態を想定して準備をしていたのだから。しかし、「安全宣言」も素早かった。

住民の健康を第一に考えた、本当の「安全宣言」である事を祈りたい。

# “ふるさといきものの里” 自然探検 竜丘の昆虫を探そう



塩沢さんの話に興味津々!

汗ばむほどの晴天の中、虫かごや網を持った子どもたちが約六十名の参加者が新緑のコースを昆虫を捕まえたり自然を観察しながら歩きました。

親子ふれあいハイキングが五月十七日(土)に、親子で遊びながら竜丘の自然に親しめるように、文化・体育両委員会の企画で行われました。

コースは平成十三年度に発行した「丘のみちしるべ」のギフチョウ公園メダカ生息地散策コースを基本に駄科方面までのぼしたものです。

公民館で、湯沢真理子先生(竜丘小学校)、塩沢義男さん(飯田昆虫友の会)、原田忠治さん(竜丘歩こう会)の三名の講師の紹介とあいさつのおと出発しました。

まずは桐林安城方面から塚原の古墳群へ。講師の説明で古墳の質と量で飯伊随一の貴重な歴史的遺産であることを初めて知る方もいました。その後、匠の里KOAの近くでメダカの棲める自然を大切にしている塩沢さん(桐林)の、貴重な固有種のメダカが生息する池を訪れました。

メダカやオタマジャクシ、シオカラトンボなど熱心に観察したあと、環境産業公園を通りギフチョウ公園へ向かいました。公民館では、ギフチョウの食草であるヒメカンアオイの移植を、小学校と協力して行った話を聞き、かけがえのない宝物として保護されている事を改めて実感しました。幸運な事に、ヒメカンアオイの葉の裏側に産み付けられた小さな卵と幼虫を観察することが出来ました。昼食は、万寿山でそれぞれ持参したお弁当を広げました。

歩きながら講師に昆虫や植物の説明してもらったり、道すがら草笛を子どもと一緒に作って吹いたり、草花の名前を教わったりと和気あいあいと歩く事が出来ました。

子どもたちは飛んでいる「べぼう」を捕まえ、その集めた蜜を舐めたりと貴重な体験ができ、虫かごに入りきらないほどの思い出を詰め込んでいました。

時間の都合で予定していたコースを少し省きました。が、新緑の中竜丘の自然を満喫することが出来ました。

今回は特に、竜丘小学校の湯沢先生に講師として参加していただきました。幅広い知識をもとに、参加者の質問に熱心にそして丁寧な答えを返してくださいました。

## 分館紹介

桐林は世帯数が四百という大きな区ですが、このうち半数が他地区から移ってきた方です。これらの人たちと触れ合い知り合ひになって、道ばたですれちがえば声を掛け合う、そんな風景が日常茶飯事に見られるこの頃です。

## 触れ合って 知り合いを増やす

### 公民館桐林分館

毎年八月に人形劇フェスタと同日開催の「桐林サマーカーニバル」は、区民の触れ合いの輪が最も大きく広がる行事です。昨年は五百

力のもとに、充実した行事にしようという機運が盛り上がっています。

桜の名所万寿山は、桐林の憩いの場として親しまれています。桜の満開の



満員御礼 サマーカーニバル

下で行われるバレーボール大会と夏のマレットゴルフ大会は常会対抗として定着し、当日は常会同士が競う姿と和気あいあい触れ合う姿が区内のあらゆる団体の協マツチして素晴らしい風景が展開されています。

こうした行事を通してお互いに知り合いを増やすことが、区

## 一年のスタート 新たな気持ちで 委員総会特別研修会



公民館活動の一層の充実を図るため、本年度は委員総会に引き続いて特別研修会を初めて開催しました。

講師に、松本市あがたの森文化会館の初代館長で、現在は社会教育について松本大学で講義をされている手塚英男先生を迎えて、お話を伺いました。

講演では、公民館の生い立ちから現在までのその役割の変遷について、松本市の様子などを例に上げお話をいただきました。飯田の公民館活動は住民が主体であること、各地区に市職員の公民館主事を配置していることなど、松本はお手本としていたとのことでした。

地域住民の学びの場としての公民館は地域づくりの拠点としての役割を担っています。この研修会を通じて、公民館活動は地域住民の自発的な意志に基づいて行われることが大切であることなどを再確認することができました。

## 問い直したい 災害時の対応

### 上水道給水制限から

四月二十二日早朝、妙琴浄水場で水道水の濁度が水道法の基準値を超え、飲料水不適合として給水制限になる事態が発生しました。

市当局は、市内各所に給水所を開設。竜丘地区は支所に給水所が設けられました。深夜、早朝を問わず給水所には多くの市民の方が来りました。給水に際しては、自治会の皆さんを中心に市民との対応にあたりました。また、独居老人宅へは民生児童委員の方が、水を配っていたり、水を配っていただけなくて、大きなトラブルもありませんでした。今回のようなことは過去

市民に早く正確に情報を伝える大切さを感じます。災害時は、当然行政が対応しますが、初動体制が整うまでや各個人の世帯の状況を上げて対応していく体制の整備が必要ではないかと、考えさせられました。



夜がふけても続く給水活動

## 人事

戸籍担当  
久保田 泰弘

自主防災協議会、防火防犯委員会、交通安全会、少年補導委員会の事務局を担当させて頂いております。地域活動の盛んな竜丘で、少しでも皆さんのお役にたてるよう、様々な事に目を向けていきたいと思っております。よろしくお願いたします。



転出  
上柳智広さん(厚生担当)  
農政課へ

## 平成14年度竜丘公民館地区費決算報告

区分	行為NO	項目	本年度決算額	本年度予算額	比較	説明	
歳入	1	前年度繰越	463,771	463,771	0		
	2	地区費	2,563,500	2,550,000	13,500	前期1,731戸×750円、後期1,687戸×750円	
	3	補助金	150,000	150,000	0	自治会:成人式(150,000円)	
	4	雑収入	75,070	229	74,841	祝儀、預金利息ほか	
		合計	3,252,341	3,164,000	88,341		
歳出 総務費	5	報酬	234,400	234,400	0	委員報酬地区費負担分	
	6	賃金	59,000	59,000	0	用務員賃金	
	7	交際費	67,000	60,000	7,000	館長交際費、東京竜丘会	
	8	消耗品費	108,352	100,000	8,352	事務・事業用品	
	9	会議費	195,970	220,000	-24,030	委員会等一部補助	
	10	食糧費	244,384	240,000	4,384	反省会等飲食代一部補助	
	11	修繕費	0	30,000	-30,000		
	12	維持・管理費	77,295	50,000	27,295	公民館清掃謝礼、クリーニング代ほか	
	13	通信運搬費	3,697	15,000	-11,303	郵送料	
	14	使用貸借料	50,000	50,000	0	バス借上料	
	15	研修費	50,000	50,000	0	委員研修	
	16	負・補・交	261,000	351,000	-90,000	団体負担金、各種大会参加補助	
		計	1,351,098	1,459,400	-108,302		
	歳出 事業費	17	成人式	143,096	200,000	-56,904	記念事業、記念写真、祝賀会一部補助ほか
		18	運動会	595,393	550,000	45,393	用具更新、賞品代、賞金ほか
		19	文化祭	292,283	250,000	42,283	各種借上料、消耗品費ほか
20		体育大会	194,526	200,000	-5,474	分館参加費、審判屋敷代、用具代ほか	
21		文化事業費	153,348	70,000	83,348	くつろぎコンサート、弦楽四重奏団コンサート他事業費	
22		その他事業費	189,954	200,000	-10,046	学級・講座、ブロック事業、他各種事業費	
		計	1,568,600	1,470,000	98,600		
23	予備費	332,643	234,600	98,043	平成15年度4~7月運営費		
	合計	3,252,341	3,164,000	88,341			

差引残高 332,643円は、平成15年度へ繰越し

平成15年3月31日 竜丘公民館長 木下 陸奥

【監査報告】

平成15年4月18日監査したところ、証拠書類等整理され適正なる処理がされていることを認めました。

監査委員

塚平正廣

上條海八郎